

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：株式会社木下福祉アカデミー

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数			実施内容	
1 職務の理解 6 時間			通学	通信	合計	1 職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解	(1) 同左	3		3	(1) 講義のみ
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2) 同左	3		3	(2) 講義および演習：視聴覚教材の活用により、働く職場のイメージをつかみ、介護職とはどのような仕事なのかをグループ討議行う。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 9 時間			通学	通信	合計	2 介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護	(1) 同左	1.5	4.5	6	(1) 通信講習、講義および演習：講義を行った後、人権と尊厳を守り、支えていくことの重要性についてグループ討議を行う。
	(2) 自立に向けた介護	(2) 同左		3	3	(2) 通信講習のみ
3 介護の基本 6 時間			通学	通信	合計	3 介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1) 同左	2		2	(1) 講義および演習：講義後に、介護職の役割と専門性、多職種の理解と連携の方法について事例に基づきグループ討議を行う。
	(2) 介護職の職業倫理	(2) 同左	1		1	(2) 講義および演習：講義後に、事例を基に介護従事者に求められる倫理観についてグループ討議を行う。

(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント
(4) 介護職の安全

(3) 同左		1.5	1.5
(4) 同左		1.5	1.5

(3) 通信講習のみ
(4) 通信講習のみ

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間
(1) 介護保険制度		
(2) 障害福祉制度及びその他制度		
(3) 医療との連携とリハビリテーション		
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション		
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		
6 老化の理解		6 時間
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常		
(2) 高齢者と健康		
7 認知症の理解		6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	1.5	3.5	5
(2) 同左		1	1
(3) 同左		3	3
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	1.5	1.5	3
(2) 同左	1.5	1.5	3
6 老化の理解		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	2	1	3
(2) 同左	1	2	3
7 認知症の理解		6 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左		1	1
(2) 同左		1	1

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1)	通信講習、講義および演習：講義後に、介護保険制度における福祉サービス内容や利用の流れについて、グループにて調べ学習を行う。
(2)	通信講習のみ
(3)	通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1)	通信講習及び講義・演習：講義後に、コミュニケーションの意義、目的、役割などを踏まえた、コミュニケーションの基本技術をロールプレイを通して体験する。
(2)	通信講習及び講義・演習：講義後に、グループにて事例検討を行い、チームにおけるコミュニケーション方法やカンファレンスの重要性について学習する
6 老化の理解	
(1)	通信講習および講義
(2)	通信講習、講義および演習：講義後に、日常の健康管理について血圧、脈拍、体温等のバイタルを測る実技演習を行う。
7 認知症の理解	
(1)	通信講習のみ
(2)	通信講習のみ

(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
(4) 家族への支援

(3) 同左	3	0.5	3.5
(4) 同左		0.5	0.5

(3) 通信講習、講義および演習:認知症の症状の現れ方などについての講義を行い、具体的な関わり方について複数の事例に基づき、ロールプレイ演習を行う。
(4) 通信講習のみ

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		0.5		0.5
(2) 同左		1	1	2
(3) 同左			0.5	0.5
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間		
ア 基本知識の学習		10 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		3	1	4
(2) 同左		1	2	3
(3) 同左		2	1	3
イ 生活支援技術の講義・演習		55 時間		
		通学	通信	合計
(4) 同左		3.5	1.5	5
(5) 同左			3	3
(6) 同左		7		7
(7) 同左		12		12

8 障害の理解		
(1) 講義のみ		
(2) 通信講習、講義および演習:講義後に、各障害や症状における支援の留意点をグループで調べ学習をする。		
(3) 通信講習のみ		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 通信講習および講義		
(2) 通信講習および講義		
(3) 通信講習、講義および演習:体のしくみの講義後に、人体の構造やボディメカニクス原理の実技演習を行う。		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 通信講習、講義および演習:生活支援としての家事サービスのあり方についての講義後に、寝具の整え方の実技演習をグループ別に行う。		
(5) 通信講習のみ		
(6) 講義および演習:整容の意義についての講義後に、着脱介助の実技演習をグループ別に行う。		
(7) 講義および演習:移動・移乗に関する基礎知識についての講義後に、移乗・移動介助の実技演習をグループ別に行う。		

(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4 時間	

(8) 同左	7		7
(9) 同左	7		7
(10) 同左	7		7
(11) 同左	3		3
(12) 同左	1	3	4
(実習) [※]	0 時間		
ウ 生活支援技術演習 10 時間			
	通学	通信	合計
(13) 同左	3		3
(14) 同左	7		7
10 振り返り 4 時間			
	通学	通信	合計

(8) 講義および演習:食事の意味や環境整備についての講義後に、食事介助の実技演習をグループ別に行う。
(9) 講義および演習:入浴や清潔の意義についての講義後に、施設の風呂を使用しての入浴介助や部分浴、清拭の実技演習をグループ別に行う。
(10) 講義および演習:排泄に関する基礎知識の講義後に、排泄介助の実技演習をグループ別に行う。
(11) 講義および演習:睡眠や体位変換の意味および環境整備についての講義後に、体位交換の実技演習をグループ別に行う。
(12) 通信講習及び講義
(実習) [※]
ウ 生活支援技術演習
(13) 講義および演習:介護過程の目的や意義についての講義後に、介護過程の展開を理解するために、個別援助計画の作成演習を行う。
(14) 講義および演習:事例検討の意義や留意点についての講義後に、高齢者の認知症と片麻痺の2事例を基にグループ討議及び実技演習を行う
10 振り返り

(1) 振り返り	(1) 同左	3	3	講義および演習: 講義にて研修全体で学んだことの再確認を行うと共に、介護の基本的態度の視点について考えるグループ討議を行う。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	1	1	(2) 講義のみ
追加カリキュラム				
計 (130 時間)	計 (130 時間)			

※「9 こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、1 2 時間以内とする。